

矢口家でも
おかねについて
学習中！



金融教育の取り組みをさらに推進

～ 学校教育での実践を支援するために体制を強化 ～

日本銀行情報サービス局が事務局を務めるマネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会は、中立・公正な立場から金融経済情報の提供と金融経済学習の支援を行っています。知るぽるとのぼるとは「入口」や「港」という意味です。HPアドレスは、<http://www.shiruporuto.jp/> です。

金融教育は時代の要請

ペイオフ解禁、銀行・郵便局窓口での元本保証のない金融商品の販売増加、多重債務や架空請求などを巡る金融トラブルの多発など金融環境が大きく変化する中で身に付けておくべき金融知識はどんどん増えていきます。こうした事情は、社会人だけでなく、小・中・高校生などにとっても同様です。

金融広報中央委員会では昨年「子どものくらしとお金に関する調査」（平成十七年度）を初めて実施しましたが、その中からも金融教育の必要性が読みとれます。

子どもの金銭管理について多くの子どもたちは、小学校低学年から、いろいろな形である程度のお金を持っているのが現実です。こうしたお金の管理や使い方については比較的早い段階から考えさせる必要があります。

携帯電話、インターネットの普及について

携帯電話からのウェブサイトへのアクセスが一般化し、ネットショッピング、オークションへの参加もみられます。これらは使い方によって消費者トラブルに巻き込まれる可能性もあるため、利用する際の留意事項などについては、早めに教えていく必要があります。

働くことへの関心・意識、家庭との連携について

調査によれば、アルバイトに関心を持つ中学生・高校生は多く、また、家庭の会話の中では、家族の仕事、自分の就きたい仕事なども話題にしています。フリーター、ニートの増加が社会問題となっている今日、こうした機会を、働くことについてしっかり考えるきっかけにしておく必要があります。

金融経済などに関する知識
金融機関の役割、金利に関する基本知識、市場の役割、契約の基本など生活する上で、必要な基礎知識の理解は必ずしも十分とは言えません。家庭はもとより学校における金融知識普及

の必要性が高まってきています。

十月に金広委事務局の中に金融教育プラザを設置

当委員会では、昨年度を「金融教育元年」と位置付けて、学校における金融教育への取り組みを強化し、本年度も「みんなでつくる金融教育」をテーマに活動を行っています。近年は、金融庁、内閣府、文部科学省など諸官庁や民間企業でも金融教育に対する関心が高まってきています。当委員会としては、こうした流れを踏まえて、本年十月、事務局内に学校における金融教育を推進・支援する担当部署を集約、強化する形で「金融教育プラザ」を設置しました。このプラザは、実際に人々が集うスペースを設置しているわけではなく、金融教育に関わる学校教育関係者や官民の

知るぽると
金融教育プラザ

が、金融教育に関わる学校教育関係者や官民の

他機関、他団体との連携を強化し、そのネットワークの要としての機能を発揮していくことを目指すものです。

プラザが現在行っている事業やこれから実施しようとしていることを次に紹介します。

金融教育公開授業を

全国二九の学校で展開中

公開授業については、昨年七月に名古屋で開催された授業や昨年十一月に東京で開催された授業の様子は、既に本欄で紹介しています。

が、本年度も、全国二九の学校（前年度は二二校）で順次開催中です。中学校の生徒を対象とした「お金は天下の回りもの？」賢い消費者になるには、「とか、小学六年生を対象とした「自分たちで作ったものを販売した収益を修学旅行に生かそう」など、様々な授業が実施されています。

作文・小論文コンクールには多数の応募

本年度で第三九回を迎える中

学生「おかねの作文」には約三二編の応募がありました。また、第四回目となる高校生「金融と経済の明日」小論文コンクールにも約一九編の応募がありました。

優秀作品には、金融担当大臣、文部科学大臣、日本銀行総裁、金融広報中央委員会会長、日本PTA全国協議会会長、全国公民科・社会科教育研究会会長からそれぞれ賞が贈られました。

また、教員を対象とした第三回「金融教育を考える」小論文コンクールも実施しています。

なお、本年度およびこれまでの受賞作品は、知るぼとホームページに掲載していますので、是非一度ご覧下さい。

金融教育プログラムを策定中

昨年三月に、学校における金融教育の実践例を集めた「金融教育ガイドブック」を作成して、全国の学校に配布しました。

現在、学習指導要領に則して、先生方が学校の授業で利用しやすい「金融教育プログラム」を文部科学省はじめ学校関係者の協

力を得ながら策定しています。昨年三月までには完成版を全国の学校に配布する予定です。それとあわせて、金融教育プラザのメンバーなどが各地をお訪ねして、利用・普及を働き掛ける予定です。

また、来年度には、このプログラムに基づいた副教材等の作成にも取り組みたいと考えています。

教員のための

金融教育セミナーの開催

毎年夏休みに小・中・高校の先生方に金融教育の意義・必要性について理解を深めて頂くとともに、より効果的な指導・実践方法を共有し、発展させていく目的で教員向けセミナーを開催してきました。

本年七月に開催したセミナーには、近年の関心の高まりを受けて、昨年（一一名）を大幅に上回る一九三名の方の参加がありました。

来年は「金融教育プログラム」を題材にしたセミナーとする予定です。

金融教育とは、お金を通して自分の生き方を学ぶもの

このようにプラザでは、学校における金融教育の実践に力を注いでいますが、金融教育は決して新たな教育分野というわけではありません。社会科、家庭科、道徳、算数など、幅広い科目の中に金融教育の要素は存在しており、それを意識的に束ねながら、お金を通して自分の生き方を考えることをねらいとしています。

また、金融教育は学校にだけ任せておけば十分というものではありません。家庭、地域、関係機関等の皆様の協力があってこそ、よりよい成果が得られるものと考えられます。皆様のご協力、ご支援をお願い致します。

